

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570102362		
法人名	社会福祉法人 松涛会		
事業所名	グループホーム フロイデ彦島		
所在地	山口県下関市彦島西山町3丁目12番1号		
自己評価作成日	平成29年7月25日	評価結果市町受理日	平成31年1月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成30年8月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分らしく 穏やかに 生きがい 喜び(よろこび)」に」という、理念のもと、職員全員で同じ目標に向かい、入居者様・ご家族様一人ひとりに、今のような支援が必要で何を求めているのか、パーソンセンタードケアを取り入れ、一人ひとりに合わせた支援が提供できるように努めています。センター方式を活用し、真の思いに気付けるよう、努めています。また、地域行事等に積極的に参加したり、複合施設の利点を生かし、施設での行事には地域の方を招いたり、地域の方との関わり合いを大切に、お互い良い関係が築けるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自治会の総会や地域の清掃作業に職員が参加しておられる他、利用者は地域の夏祭りや防災訓練、文化祭に作品を出展して参加しておられます。拠点施設では交流室を地域に開放しておられ、ボランティアの来訪時や法話、地域の人のピアノ発表会時に場所の提供をされるとともに、拠点施設の機能を活かして小、中学生、高校生の職場体験や専門学校生の実習の受け入れをされるなどの取組みを通して、利用者は地域の様々な人との交流機会に恵まれ、地域とつながりながら暮らしておられます。身体拘束の指針に基づいて研修を実施される他、新たに身体拘束委員会を設置され、事例を基にした研修を行っておられるなど、徹底した身体拘束をしないケアの実践に取り組んでおられます。自分らしく暮らし続けられようにセンター方式のシートを活用され、長年馴染んだ習慣や好み、願いなど暮らしの様子を細かに聞かれています。日々の関わりの中で利用者に寄り添われ、利用者の発した言葉や表情から不安や悲しみ、嬉しい、楽しいと感ずること、したいことを、「ふれあい記録」に記録され、本人の視点で検討されて介護計画に反映しておられ、利用者一人ひとりの思いや意向を大切にされた支援に取り組んでおられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、活き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分らしく穏やかに生きがいを歓喜(よろこび)」にという理念を掲げ、職員一人ひとりがいつでも意識出来る様、見やすい場所に掲示したり、出勤時は各自で暗唱し仕事に臨んでいる。またカンファレンスや会議で話し合う際は、理念に基づき職員皆が同じ方向を向き援助できるようにしている。	事業所独自の理念をつくり、出勤時や業務遂行時等、常に職員の目に触れる場所数か所に掲示して、理念を意識し、確認できるようにしている。カンファレンスや全体会議の中で理念にそっているかを話し合い、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(地域の防災訓練・夏祭り・地域文化祭)に参加している。又、ボランティアとして月に1回地域清掃に参加したり、保育園児や小学生、中学生、高校生らを招いて交流を図っている。	自治会に加入し、総会に出席している他、旅行や忘年会、月1回の清掃作業に職員が参加している。利用者は、地域の盆供養祭に出かけたり、文化祭には毎年作品(今年は毛糸で犬の壁画)を出展して参加し、地域の人と交流している。拠点施設の夏祭りや文化祭、健康体操には地域から多くの参加者がある他、ボランティア(コーラス、フラダンス、日舞)で来訪の人や、拠点施設交流室を地域の人に開放し年2回の法話やピアノ発表会に来所の人、年2回来訪の保育園児等、利用者は地域の様々な人と交流している。小学生や中学生の職場体験、高校生や専門学校生、大学生の実習を受け入れている。拠点施設は地域の災害時の拠点としての役割を持ち、地域の防災訓練にも参加して協力している。近所の人からは花や果物、菓子の差し入れがあるなど、地域の人と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生や中学生の職場体験などで実際に入居者と触れあってもらい、認知症の人についての理解を深めてもらっている。運営推進会議を通して、ホームでの取り組みや、認知症の方の対応等の助言やアドバイスを地域の方にも伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全体会議にて、自己評価及び外部評価について意義は職員全員に説明している。自己評価を実施する事で職員一人ひとりが自分自身やケアの現状を見つめ直しミーティング等を通じて改善に取り組んでいる。	管理者は職員に評価の意義について説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、記入してもらい、一人でまとめている。前回の外部評価結果を受けて事故防止の取組みとして緊急時の対応の月1回の研修の実施や模擬訓練(嘔吐、脱水、食中毒予防、薬)等、実践力を身につける訓練に取り組んでいる。自己評価を通して、日々のケアの振り返りとなり、職員全員が一つひとつの課題に取り組むことを話し合っている。毎朝のミーティング時に、「私の一言」として課題に取り組む各自の決意を発表しているなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議にて近況及び行事等を報告説明している。会議で出された意見・アドバイスは事業所にて記録し、全体会議で取り上げ皆で話し合いサービスの向上に努めている。地域代表者からの行事などの情報提供は、入居者と地域との交流に繋げている。又、会議内容はご家族に配布し報告している。	会議は2カ月に1回開催している。近況や利用者の状況、行事、自己評価や外部評価を報告の後、話し合いをしている。写真を使って説明し、理解が深まるように工夫している。手づくりのおやつを出して、参加者同士が和やかに親睦、交流ができるように進めている。参加者からは地域行事の紹介や薬剤師による地域での研修会の紹介があり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の事業者係担当者とは、いつでも相談できる関係である。運営推進会議には地域包括センター職員も参加していただき、情報交換を行っている、議事内容も議事録にて報告している。	市担当者とは、市主催の集団指導時に直接出向いて、情報交換や申請内容や手続き、運営上の疑義について相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時に情報交換を行っている他、認知症カフェについて話合っているなど、連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束等の適正化のための指針を設置し、全職員が閲覧、確認できるようにしている。又、今年度から3ヶ月に1回身体拘束委員会を開催し適切なケアが行われるよう取り組んでいる。施錠については、見守り職員が1人になることがある為、安全面を考え、止むおえず施錠することがある。	職員は「身体拘束等の適正化のための指針」をもとに、内部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。今年度から3ヶ月毎に、身体拘束委員会を開催して、事例を用いて適切なケアになっているかを検討している。玄関には施錠をしないで外出したい利用者とは、職員と一緒に出かけるなど、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに気づいた時には職員間で注意合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルや関連した資料を全職員が閲覧できるようにしている。勉強会に参加し内容を職員全員が理解し、適切なケアが行われるように努めている。また入居者の状態を日々観察し変化があれば記録に残し、職員同士が話し合いの場を設け虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修などで学ぶ機会があり、個々の必要性に応じて活用できるように支援している。現在、成年後見制度を利用している入居者はいないが、必要であれば活用していきたいと思っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。契約時に契約書、重要事項説明書の内容を、1つ1つ読み上げて、説明を行い理解・納得してもらえるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設け、面会時など気軽に意見や要望など出してもらえるようにしている。職員に直接意見できるように、日頃から家族との会話を大切に話しやすい環境を作っている。意見があれば、上司や法人全体で話し合い、運営に反映させている。	相談や苦情の受付体制、第三者委員、処理手続きを明記して、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時や運営推進会議時、年一回の家族会時、夏祭りや七夕、誕生日会等の行事参加時に聞いている他、電話でも聞いている。各ユニットに意見箱を設置している。定期的に事業所便りを送付し、家族の面会時や来訪時には気軽に話せるよう雰囲気づくりに努めている。本人と家族から、居室で法事や盆供養をしたいという要望を受け入れて、実施しているなど、意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を含む職員全員参加の全体会議や各ユニットの会議では職員一人ひとりが意見できるように、検討内容を記入する用紙を提示しいつでも誰でも記入することができる。また、年に数回、管理者との個人面談を設け、管理者は代表者に相談報告し、運営に反映させている。	月1回ある各ユニット会議や副施設長が参加している月1回の全体会議の前に職員が「検討したい項目表」に意見や提案を記載している。管理者は日常の業務を通していつでも気軽にいえるような雰囲気づくりに努めている。他、職員に年2回、個人面談を実施して、普段言えないことを聞いている。勤務体制と業務の見直しや物品(ラジカセや電気製品)の購入、食器棚の修理等についての職員の意見を運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人ひとりの、性格や能力を認め、それに合わせた役割を与え、やりがいを感じられるようにしている。ストレスチェックを行い、職員の目では見えない状態なども、わかるようにし勤務体制を整えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、施設内・外のような研修に参加の機会がある。特に認知症研修には、積極的に参加できる環境である。新人教育では、指導係を各ユニットに設け、いつでも確かな指導ができるように努めている。	外部研修は、職員に情報を提供し、希望や段階に応じて勤務の一環として研修参加の機会を提供している。受講後、資料は回覧し、月1回ある全体会議の中で伝達して、職員全員が共有できるようにしている。法人研修は、月1回あり、交通安全や感染症、接遇等について実施している。今年度は管理者が法人施設見学ツアーに参加している。拠点施設合同研修は、身体拘束や高齢者虐待、接遇、マナーなどについて実施している。内部研修は、職員が講師となりテーマ（メンタルヘルス、認知症、緊急時の対応、薬について、介護ストレスなど）を決めて、毎月実施している。新人研修は、法人研修終了後、日々の業務の中で管理者や先輩職員が指導し、働きながら学べるように支援している。資格取得のために勤務体制の調整をして支援に努めている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加の際は、他施設の方と交流を図っている。研修後も意見交換を行う機会があり、ネットワークを作り、より良いサービスを提供できるよう取り組んでいる。法人内のグループホームが集まる合同会議では情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にしっかり家族の思い要望等を聞き、その上でプラン作成し、本人家族に了承を得て実施している。入居後は本人の思いが知れるよう接する時間を多く取り、安心して過ごしてもらえるような支援ができるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際に契約書や重要事項説明書の内容をしっかり説明し、グループホームで出来る事・出来ない事をきちんと伝えることで安心してもらえるようにしている。面会時には細目に近況報告を行い、より良い信頼関係を築ける様に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの意見・思いを聞き「その時」必要な支援を見極め、その上で入居後に考えられる状況変化(車椅子、シルバーカーの使用等)について、他サービスの紹介を含め、説明対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬の意を表し、本人のペースに合わせ、思いを大切にしている。同じ時間同じ場所を共に過ごす者同士、良い関係を築きながら、一緒に笑ったり、喜び合ったりする時間を大切にし、感謝の言葉を忘れずに伝えている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会や他行事の参加の呼び掛けをしたり、面会時には自室で家族とゆっくり過ごせるよう配慮している。また、本人のことで困っていることなど相談し合ったり、アドバイスをいただいたりしてより良い支援ができるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外でも、知人や友人、教え子の来訪があるほか、手紙での交流も支援している。家族の協力を得て、外泊外出、結婚式や法事、月に1度のお茶会に行かれたりと、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	家族の面会や親戚の人、職場の同僚、幼なじみ、ケアハウスの友人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。馴染みの食堂や娘の職場に出かける支援をしている他、家族の協力を得て法事や結婚式への参加、お茶会に参加、墓参、一時帰宅、正月や盆の外泊等、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士が楽しく過ごせるよう、食事の席や共有スペースの席を常に意識して、環境を整えている。時には、気の合う仲間を部屋へ招き、ティータイムや食事などして過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	主に管理者が行っているが、契約終了後も家族が不安にならないように必要に応じ相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人の声に耳を傾け、本人の視点で考え一人ひとりに合った支援方法ができるよう努めている。また家族から知り得た情報や本人の発言内容を記録に残し、職員が共有できるようにしている。困難な場合はその情報をもとに本人本位に検討している。	利用者一人ひとりが求めている支援を提供することが事業所の方針であり、入居前にはセンター方式のシートを活用して長年馴染んだ習慣や好み、願いや支援して欲しいことなど暮らしの様子を細か聞き思いの把握に努めている。日々の関わりの中で利用者に寄り添い、利用者の発した言葉や表情、態度から、不安や悲しみ、嬉しい、楽しいと感ずること、したいことを「ふれあい記録」の特別欄に具体的に記録して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握している。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、本人、家族、ケアマネからの情報を集めたり、センター方式(B-3)を活用したりと、これまでの人生を把握できるように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録(ふれあい記録)に毎日の様子や活動を記録し、職員全員で共有できるようにしている。状態の変化などあれば、筆記用具の色を変える等の工夫をし、現状の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	長期・短期プラン終了の際は本人の思いや家族の要望など聞き入れカンファレンスを行い、プラン作成に反映させている。また様子の変化に応じて臨時でカンファレンスを行いプランを変更することもある。必ず全員に意見を出してもらい、話し合いケアプラン作成を行っている。	計画作成担当者と利用者を担当している職員、管理者を中心に月1回、カンファレンスを開催している。本人の思いや家族の意向を聞き、主治医、訪問看護師の意見を参考にして話し合い介護計画を作成している。毎日、目標をチェックし、1ヶ月毎にモニタリングを実施し、3ヶ月毎に見直しをしている他、利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ふれあい記録、バイタル・排泄・食事摂取量の記録を個別に作成していて、職員全員が共有・把握している。私の姿シートにはすぐに書き込めるようにしておりプランを見直す際は、プランの実施状況と合わせて見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設という利点もあり、様々な行事参加や、設備の使用など、他部署との連携もあり、その時の状況に合わせて、柔軟にサービスが提供できるように取り組んでいる。家族から要望があれば遠方の家族に手紙や電話での近況報告も行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブを兼ねて、近くのスーパーに買い物に行ったり、家族をたずねたり、本人が楽しめるような支援ができるよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医を紹介し説明した上で同意を得ている。月2回主治医による往診があり、近況報告している。電話やメールでの相談、報告も随時行っており、常時連絡が取り合える体制を整えている。また以前からのかかりつけ医も受診できるよう、連携を取り情報共有している。	本人及び家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回、訪問診療を受けている他、週3回、看護師の訪問がある。他科受診は家族の協力を得て実施している。受診内容や結果は「受診記録」に記録し、家族には面会時に口頭で伝え、職員間では受診記録で共有している。夜間、休日、緊急時は24時間オンコール体制であり、医療機関の指示を受けて適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週三回訪問看護師が来所し、様子をみてもらっている。介護士と看護師の信頼関係が築けており、気兼ねなく相談したり、指示を受けることができる。24時間体制なので、緊急時などいつでも適切な指示が受けられるようになっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供・交換を行い早期の退院ができるよう、努めている。入院中も、現状報告や相談等、電話で情報交換を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、重度化に関する説明や、本人や家族の意向を確認している。状況の変化の際には、主治医や看護師、家族に相談しながら、意向に沿えるよう支援できるようにしている。終末期に関しては体制を整えていない。	「重度化による看取りに関する意向確認」に基づき、契約時に家族に説明をして同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から本人や家族の意向を聞き、主治医や看護師等と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変・事故発生時に備え、BLS研修などに参加し実践力を身につけている。また事故発生時には速やかに報告書を作成し事故対策委員会に提出報告し、さらには今後の事故防止の為の事例検討を行っている。	事例が生じた場合は、事故、インシデント報告書に状況や原因、再発防止策、家族への対応を記録し、回覧して職員間で共有している。法人の事故対策委員会へ報告を行い、全体会議で再度検討して一人ひとりの事故防止に努めている。職員は、法人が年1回実施している救急救命法とAEDの使用法の講習を受講している。内部研修で緊急時の対応や食中毒、脱水症、感染症について学び、嘔吐の模擬訓練を実施しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けているとは言えない。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会いのもと、昼・夜想定での避難訓練を行っている。近隣住民や自治会の方も参加し避難経路や消防設備の使用など実演して身につけている。また毎朝の朝礼で消防設備の種類・位置を唱和し確認している。地域で行われる図上訓練にも参加している。	年2回、消防署の協力を得て、拠点施設合同で昼夜の火災、地震、風水害を想定した、避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器、消火栓の使い方について自治会や地域住民、利用者も参加して実施している。職員は、毎朝消火設備の場所の確認をしている。自治会主催の防災訓練には職員や利用者も参加し、災害時の協力について話合っている。拠点施設は、地域の災害時の拠点施設でもあり、緊急連絡通報装置には自治会長、副会長が加入し、地域との協力体制を築いている。災害時の非常用食品を備蓄している。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりに合わせた言葉かけや場面に合わせた対応をするように心がけている。その人にとって理解しやすい言葉や距離で声をかけている。入居者に関する耳に入ってはいけない会話などは、入居者にわからないように配慮している。	職員は法人や拠点施設研修、内部研修の中で接遇や言葉づかい、対応について学び、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。管理者は利用者に話しかける際には目線を低く、視界に入る場所で話しかけるようにと、折に触れ話しており、職員は利用者と話す時の姿勢や言葉づかいは常に留意している。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解しやすく意思表示がしやすいように、絵に表したり、字で表現して工夫している。また本人からのサインを見落とさず、思いに添えるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や、意思や希望などを尊重し、ケアプランなどを行う際は本人のペースで過ごせるように支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室に本人持ちの鏡や化粧道具を備えている方もおり、洗面所に鏡を設置しているので、自身で身だしなみを整えることができる。一人で行なえない方でも、職員が一緒に行なう事で、その人らしいおしゃれができるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みや状態に合わせ、変更したり食べやすい状態にしている。皿や盛付け等も工夫し、目で見て食事を楽しめるようにしたり、和え物を一緒に作成・盛付けしたり、職員も一緒に食事の席につき、会話も楽しんでいる。食後は一緒に茶碗を洗ったり、拭いたりしている。	食事は三食とも法人の配食を利用し、ご飯は事業所で炊いている。利用者の好みや状態に合わせて、形態や食器の工夫をして食欲を高めるように支援している。利用者は果物を切ったり、和え物を混ぜる、盛り付け、ランチョンマットの準備、配膳、食器を洗う、食器を拭くなど、できることを職員と一緒にしている。食事中は静かな音楽が流れる中で、利用者と職員は同じテーブルでさりげない介助や会話を楽しみながら食事をしている。むすび持参の花見やケーキの着く誕生日食、季節行事食（おせち料理、節句のちらし寿司、土用の鰻、ラーメン流し、クリスマス、年越しそばなど）の他、家族の協力を得て外食等、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士がバランスの取れたメニューを考えた食事になっている。食事量、水分量はそれぞれ個人ファイルに記録しており、足りない時は、高カロリー食などの提供で補うようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士から、一人ひとりに合ったケア方法を教えていただき、ファイルに入れていつでも確認できるようにしている。起床時、毎食後に口腔ケアを行ない清潔保持に努めている。義歯は夕食後に預り毎日洗浄、消毒している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人別に排泄表に記載している。表から排泄パターンや習慣を知り、一人ひとりに合わせた方法で、本人からのサインを見逃さないようにし、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、言葉かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、ヨーグルトやヤクルト、牛乳を飲用したり、適度な運動を取り入れたりと、水分補給や体を動かしたりして、自然排便を促すように努めている。一人ひとりに合わせた予防にも取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現状は3日に1回のペースで入浴している。希望があればいつでも入れるように対応している。また、季節によっては菖蒲やゆずなどを入れ、楽しんでいただく。	入浴は毎日可能で、10時から12時までの間としているが、希望すれば夕方や夜間でも入浴できる。順番や湯加減、季節の菖蒲湯や柚子湯など利用者の希望に応じて、ゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、時間や順番を変えたり、言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭や足浴、シャワー浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間は決めておらず、1人1人のその日の様子を見ながら、昼夜問わず安心して横になれるように支援している。室温、照明、音等本人の好みに合わせている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別に薬のファイルを作っており、処方箋などすぐに確認できるようにしている。当日の服用薬は時間別、個人別に管理しており、服薬時には、職員2名でダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の俳句や刺繍、家事や出来る事をして他者や職員と一緒に喜び合ったり、張りあったり、毎日を楽しく過ごせるように支援している。センター方式を活用し、ケアプランに反映させ一人ひとりに合った内容を提供できるよう努めている。	テレビやDVDの視聴、本や雑誌を読む、日記をつける、習字、俳句を作る、短冊をつくる、ピアノを弾く、歌を歌う、裁縫、刺繍、ぬり絵、折り紙、お手玉、かるた、トランプ、坊主めくり、カラオケ、脳トレ(漢字、計算等)、ボール投げ、体操、棒体操、掃除用ウエットシートを使って掃除、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、シーツや枕カバー交換、布団干し、花を活ける、花瓶の水を換える、新聞紙でゴミ箱づくり、食事の準備(果物を切る、混ぜる、盛り付け、食器を洗う、食器を拭く、ランチョンマットを引く)、季節行事(文化祭、祭り、お月見)、拠点施設の交流室での催し、買物、外食、散歩、外出など、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者が気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日1回はホーム外に出掛けられるよう努めている。個人的に外出する場合は、家族の協力や、他部署の協力もあり、買い物や、花など鑑賞しに行っている。季節ごとの行事(初詣、花見、地域祭等)も外出支援できるよう支援している。	周辺の散歩や海を見に行く、季節の花見(梅、桜、紫陽花、紅葉)、ドライブ(自宅に行く、娘の職場)、初詣、地域の文化祭、夏祭り、お月見会、家族会で満珠荘に出かけている。家族の協力を得て外出、外泊、法事や結婚式、お茶会に参加、墓参、寺参りなど一人ひとりの希望に添って戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望がある場合は家族と相談の上、支障のない程度の現金を所持をしている。行事や買い物支援で、実際にお金を使う機会もあり、その際は支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、家族や友人といつでも電話で話せるようにしている。年賀状や手紙も書けるように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の色々な場所に花を飾ったり、季節に合わせた手作りの飾りを置き、その季節を感じられるように工夫している。大きな窓から入る自然の光や音、風も感じられるように、その時々に合わせて配慮している。	玄関や廊下には椅子を置いている他、海が見える休憩コーナーにはソファや籐椅子を置いて、利用者が思い思いの場所でゆったりとくつろげるようになっている。廊下の壁面には利用者の作品や絵画が飾ってある他、玄関には季節の花が活けてあり、気持ちが落ち着くような雰囲気づくりができています。温度、湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中でも、テーブルごとに気の合う仲間に分かれたり、その時々状況に合わせて、職員側で配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の説明の際、本人の馴染みのものや、使い慣れた物をできるだけ持って来てもらうようにして本人の居心地の良い空間になるようにしている。	テレビ、ベッド、ソファ、箆笥、鏡台、机、椅子、テーブル、籐の洋服掛けスタンド、パイプスタンド、趣味の雑誌、アルバム、ぬいぐるみなど、使い慣れたものや好みの物を持ち込み、人形やカレンダー、家族写真、自作品の短冊、折り紙、習字等を飾って利用者が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせ、わかりやすいように表記したり、居室に名札を付けたりと、安全に自立した生活が送れるように支援している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム フロイデ金比羅

作成日：平成 30 年 12 月 25 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急時の対応について、研修、講習会の参加や勉強会を行なっているが、全職員が実践力を身につけるまでに至っていない。	緊急時に全職員が同等の応急対応、初期対応ができるよう実践力を身につけるようにする。	2ヶ月に1回、事業所の全体会議内で、事前に職員から勉強したいテーマを聞いた上で、そのテーマに添ってシュミレーション、勉強会を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。